

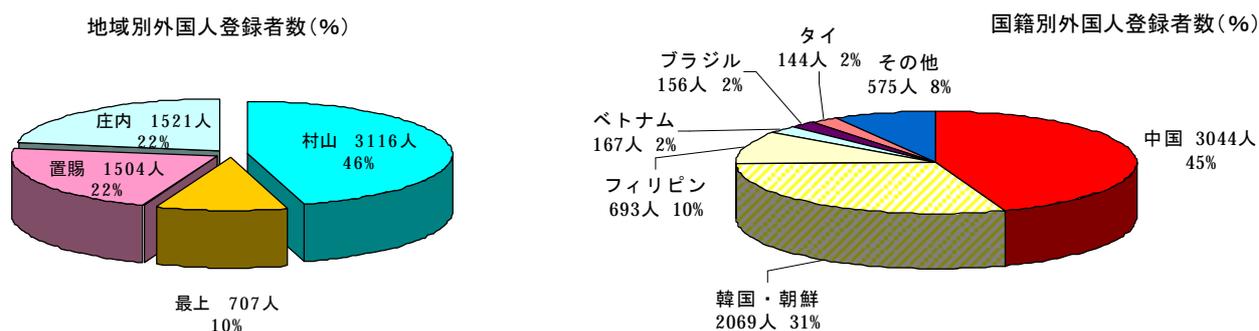
コミュニケーションカード使用の手引き

◎はじめに

本格的な少子高齢社会において、認知症や各種の障害を抱え、コミュニケーションが難しい人々が増加しています。また、国際交流が活発となる中で、日本で暮らす・旅行や仕事で来訪する外国人数も急増しており、医療(特に救急の場合)で迅速な対応を進めるためのツールが求められています。今回、私たちが作成した「コミュニケーションカード」は、そのような現場の声をもとに、関係の皆様のご協力を得て一から作成し、何とか出来上がったものです。まだまだ荒削りな内容ですが、県内はもとより国内でも取り組みが始まったばかりのもので、実際にご活用いただきながら、より使いやすいものに育てる事が出来れば幸いです。

1 統計データについて

在住外国人の数は平成17年に全国で **200** 万人を突破し、平成22年には **220** 万人と急激な増加を続けています。山形県では、平成17年末の **7,703** 人をピークに4年連続で減少していますが、平成21年末には **6,648** 人(県人口の **0.58%**)と平成3年当時の約**3**倍の人々が在住しています。地域別では村山に **3116** 人 **46%**、置賜・庄内にそれぞれ **1504** 人・**1521** 人 **22%**、最上に **707** 人 **10%** となっています。国別では中国が **3,044** 人 **45%**、ついで韓国・朝鮮が **2,069** 人 **31%**で、併せて全体の **4**分の**3**を占めています。在留資格別では永住者が **2,867** 人 **42%**、次いで日本人の配偶者 **1,031** 人 **15%**、特定活動 **906** 人 **13%**、研修 **534** 人 **8%**の順となっています。男女別では、男性 **1,357** 人女性 **5,491** 人で、女性が全体の約 **8**割を占めています。(平成21年12月末現在 山形県国際室調べ)



一方、平成20年の訪日外国人観光客数は、対前年比 **0.05%**増の **835** 万人となって、過去最高を維持しています。また、同年10月には「観光立国」実現のため観光庁が発足し、平成22年度に訪日外国人旅行者数を **1,000** 万人とする目標が掲げられました。このような中、山形県では平成18年8月に策定された「やまがた東アジア経済戦略」に基づき、韓国・台湾・香港・中国華南地方を対象とした誘客活動が行われており、平成20年1月から12月までの外国人受け入れ実績は延べ **70,085** 人(対前年比 **108.5%**、うち台湾人は **46,062** 人)となっています。(山形県観光振興課調べ)

2 救急車用カードの使用について (No.1~6)

- No.1: 最初に何語を話せるか聴き取ります。外国人であっても日本語が堪能である場合を想定し、あえて日本語枠を設けました。頻度として多い中国語・ハングル語(韓国人)・英語の他は、国籍を訊きながら言語を確認する作業を進めます。単純に国籍を確認する場合にも世界地図を活用ください。
- No.2: 診療科目を確認します。症状から聴き取る前に、受診者自身が診療科を認識している場合(産婦人科や皮膚科など)、ここで凡その振り分けをした方が早いと考えました。
- No.3: 症状を大まかに聞くため、救急の場で訴えられる症状のうち頻度の高いものと体の絵を使い、大まかな聴き取りに活用します。患者自身が指差ししにくい場合には、救急隊員が紙芝居のようにカードを掲げ、一つ一つ指差しながら相手のうなずきを確認する方法もあります。
- No.4: No.3 で訊いた内容を絞り込む場合に使います。いずれも救急の場で発生頻度の多い症状をイラスト入りで表記してみました。No.3 と共に見開きで使います。
- No.5: 症状がいつから始まったのか聴き取るカードです。矢印の時間軸に沿って確認する(月日)の他、発生時間については時計の絵の中に長・短針を書き込んでもらい確認します。
- No.6: No.5 と合わせて、症状の持続期間を聴き取ります。なお、痛みなどの持続時間を聴き取る際には、その長さを確認するため、右下の数字と右上の時間単位を **2** つ組み合わせさせて答えてもらうようにします。(例: 2 + **minute** = **2** 分) また、嘔吐・下痢などの回数については、右下の数字を使います。(10 回以上の時には、数字 **2** つを選んでもらうようにします。) No.5 と No.6 は、見開きで使った方がいいかも知れません。No.6 の裏は白紙にしました。随時、文字や図を書き込みご活用ください。

3 医療機関用カードの使用について (No.7~15) …No.1~6 に続けて使用します。

- No.7-1: 頭痛・めまいについて聴き取るカードです。①②で痛みとしびれの有無とその部位を確認します。症状の有無については首振りを促し、部位については **13** のカードに示した人の体のイラストを活用します。痛み (**hurt**) や嘔吐 (**throw up**) という表現は、医学用語を極力使わないため使用しました。
- No.7-2: 胸痛・胸部苦悶を聴き取るカードです。①については、カード⑥の右上部分を使い、痛みの持続時間を正確に確認します。⑤は、鑑別診断として胆石や消化器疾患を想定しています。⑥は心不全または **COPD**、もしくは心臓神経症なども考慮しています。
- No.7-3: 嘔吐・吐き気について聴き取るカードです。吐物や下痢便の色と回数については、それぞれ No.8・No.6 (右下) で聴き取ります。③④は脳神経系由来の嘔気・嘔

吐を、⑤は消化管由来を想定しており、⑤が有の場合は、引き続きNo.7-4 のカードを使います。

- No.7-4: 腹痛について②で食中毒を想定した質問、⑤は便秘症を⑥は婦人科由来、⑦は泌尿器系由来(特に頻度として高い尿管結石を想定)したものです。③の嘔吐については、腹痛を訴えたが実は嘔吐もあったというケースを想定しており、No.7-3 から引き続き質問している場合には省略します。
- No.7-5: 腰痛について聴き取るカードです。⑤については、**DV** などで腎臓を蹴られた場合を想定し、合わせて⑥で尿の色を確認します。
- No. 8: 吐物・便・尿の色を確認するための部分と、食べ物のイラストになります。貝類と内臓については、イラストのみでの表現が難しかったので言葉も入れました。
- No.9・10: 既往歴を聴くカードです。見開き **2** ページで使用します。⑦の家族歴についても、自分の既往と同様にNo.11 で疾患を、No.13 で手術歴を聴きます。但し、No.13 は、他の問診にも活用できるよう、タイトルに手術という言葉がありませんので、家族歴として手術の内容を聴き取るのであれば、No.9 の④を経由した方がいいかも知れません。
- No. 11: 既往症を聴き取るカードです。救急現場で頻度が多い、または重要性の高いものを、グループごとにまとめてみました。「がん」など、全身にわたるものではNo.13 のカードと合わせて、体の部位を尋ね絞り込みます。
- No. 12: 内服薬を確認するカードです。薬品(商品)名を聴き取ると際限が無いため、こちらについても救急現場で重要性の高いものを列举してみました。
- No. 13: 体の部位を指し示すイラストと、手術頻度の高い病名を入れました。ここでのヘルニアとは椎間板ヘルニアとともに鼠頸ヘルニア両者に使います。
- No.14・15: 救急の場で実施する検査を中心に、その手順を写真入で解説したものです。一部については、手順を分かりやすくするため言葉を追加しました。

以上、今回作成したカードは英語版ですが、日本語をたどることにより、聴覚障害者や聾啞者の方々にも活用いただける内容ですので、是非、診療の場で広く使っていただきたいと考えております。